Vol.18 2012.10
平成24年10月発行

東京奥能登応援団だより

東京奥能登応援団事務局
〒102-0083
千代田区麹町4-8
石川県紀尾井会館
石川県人会 内
TEL 090-8876-4901

ロンドンオリンピック手記

日本女子サッカーリーグ理事長　本田　一男

多くの国民の皆様の熱い声援と期待を受け、我が「なでしこジャパン」は8月9日午後7時45分（現地時間）、サッカーの聖地ウェンブリーで前大会及び前々大会の覇者米国との決勝戦に臨みました。結果は、序盤早々得点に成功した米国チームに2点を先制され、日本チームは後半に何とか1点を返したものの残念ながら及ばず1対2で敗退いたしました。

昨年のワールドカップに続く優勝とはなりませんでしたが、圧倒的に体格に勝る外国人チームの中にあって、強烈なプレッシャーにも屈することなく正確なパスプレイを駆使し、身上のチームプレーとフェアプレーを貫き、オリンピック大会では女子サッカー初となるメダル（しかも銀）を獲得した成果は、国民の皆様にも喜んでいただけたのではないでしょうか。

ロンドンで戦う選手達の胸奥には、今なお東日本大震災で苦悩されている人々をはじめ国内、あるいは現地で応援して下さる皆様、支えてくれる仲間たちへの思いがあり、そうした多くの人達のためにも悔いの無い試合をしようと全員が決意し大会に臨みました。そういったやさしい心の結晶が、世界も認めるフェアプレーの体現、敗者を労わる真のスポーツマンシップの具現ともなり、なでしこチームの誇りに繋がっています。

「能登はやさしや　草までも」とうたわれるように、ふるさと能登の人々はどこまでもやさしく親切です。時にお人好しなまでの親切は視点を変えれば逆に強さでもあり、なでしこチームのしなやかな強さにどこか通じるものがあると私は考えています。ぜひ、当地を訪れ、その人情、風土に触れてみていただきたいと思います。

おかげさまで、後に続く「ヤングなでしこ」も先般、日本で開催されたワールドユースで見事銅メダルを獲得するなど、そのレベルも着実に向上しており、層の厚みを感じています。日本女子サッカーはこれからも更なる高みを目指し、皆様に勇気と感動を与えられるよう頑張ってまいります。

今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

● **本田　一男氏**／志賀町出身 昭和16年生まれ。
資格の大原で有名な大原学園理事、日本スポーツ科学専門学校長、㈳全国産業人能力開発団体連合会専務理事などを歴任され、現職（一般社団法人日本女子サッカーリーグ理事長）。日本トップリーグ連携機構理事を兼務。

〈写真〉
中央筆者、向って左キャプテン宮間選手、右守護神　福元選手

「東京奥能登応援団のホームページ」アドレスは **http://okunoto.net** です。

こらむ　アイデンティティ ⑯

奥能登を彩る象徴的な空間

―『切子燈籠（キリコ）』その1

キリコー　奥能登生まれの奥能登育ちならどなたも目の裏に心の底にあの細長い長方形の光る造形と笛・太鼓・カネの音色の囃子が残響して思い出されるであろう。

それもそのはず、奥能登は7月から10月初め頃にかけて能登半島一帯どこかの町―そう、２００近くにも及ぶ地域・箇所でキリコが乱舞し、存在する切子燈籠の数は大小８００基を超えるという。しかも、どれ一つとして同じものがない。能登キリコという他では見られない独特の造形を共有しておらが切子燈籠を組み個性色濃く仕立て上げるのである。そして、町や集落ごとに自分たちのキリコ祭の伝統的な意味と伝わってきた特色を継承しながら創意を凝らして、暗夜に明かりを入れて彩り乱舞する様は奥能登が演出する異次元の空間である。

私もそうであったが、今も若者達はキリコ祭に合わせて帰省するという。こんなうれしいことはない。キリコの担ぎ手の柱となって、夏から秋の祭りの王国のエネルギーとなってほしい。穏やかで温か味のある奥能登人の実は内に秘めた魂と胆力がみなぎり荒ぶり呼び覚まされる時である。

〝本だより〟にも再々紹介されているように、切子燈籠は都内・関東に登場した。池袋、靖国神社、総持寺、品川・・・と。これを実現させるために井戸を掘った八木淳成、安田正、光眞章、今井欽次さんや関係の皆さんに心から敬意を表するのである。奥能登人に長く血を騒がせてきた伝統文化のキリコ・シンボルを首都に位置付け楽しみつつ故郷を思い、訪ねる人々に能登はいらんかいネと物語るのは何とも素敵なことであろう。

切子燈籠は、奥能登を代表するメッセンジャーでなくてはならない。

（押上武文〈府中市・宝立町出身〉）

平家伝説小説を手がける櫻田啓氏の取材訪問

去る9月2日、3日平家伝説をテーマとするミステリー小説を執筆中の櫻田啓氏が奥能登の平家ゆかりの地を巡った。

初日は、レストラン浜中で名物・イシル鍋で歓待を受け、午後須々神社へ。猛暑の中、新保博氏や猿女宮司のご案内で「蝉折の笛」などの至宝を見学した。

翌日は、平家の郷構想研究会・大兼政忠男会長、重政靖之氏の出迎えを受け、訪れた平時忠の墓所では、則定家ご当主から貴重なお話を拝聴し、時国家ではスペシャルガイド・藤平朝雄氏から解説を受けた。大分県に落ち延びた平家の末裔を自認する櫻田氏は、奥能登の平家高官の配流先の伝説や逸話の奥深さに感激していた。

取材の最後に訪れた時国家を辞する時、門の前で平家家紋である揚羽蝶1羽がヒラヒラと一行の眼前を舞い、奇縁に瑞兆と驚嘆するばかりであった。

時代物を得意とする作家の櫻田氏が、初めて取り組んだ現代小説は、大分と能登そして東京のトライアングルを結ぶ、平家伝説を背景としたミステリー小説で、近く『殺意の赤い実』と題してPHP研究所から出版される。

能登空港応援隊キャンペーンにとも旗登場

7月26日　品川区大崎・メルパルクにおいて、80人が参加し能登空港応援隊の総会を開催した。石川県空港企画課安田秀樹課長が挨拶に立ち、「皆さん方のご協力により搭乗率62パーセントを達成したが、引き続き厳しい状況にあるので今後もご支援をお願いしたい」と訴えた。

その後、同区内西大井広場公園に移動し品川納涼祭で空港利用促進キャンペーンを行った。公園の珠洲の物産展テントでは能登直送の朝取り焼きサザエがすぐに売り切れ、東京DEMAE能登半島のテントでも能登の海産物などが好評を博した。

能登のキリコ2基や小木港とも旗が展示され観客の目を引いた。東京で能登の祭りをやろう会（八木惇成会長）がキリコを担ぎあげ勇壮に練り歩いた。縁台に乗った子供達は目を丸くしながら初体験を楽しんだ。

キリシマツツジ生誕の地訪問

池上　権八

私の郷里、珠洲市大谷町の実家では、推定樹齢三百年を超えるキリシマツツジ（県指定天然記念物　名称：大谷キリシマ）が今も初夏に咲き誇り、訪れる人々の目を楽しませています。

その苗木を昨年から本年にかけ、実父宝蔵が原産地である鹿児島県霧島市へ寄贈いたしました。いわば、孫の里帰りとでも言えるでしょうか。

その後、霧島市からのお声掛りもあり、同市が私たち夫婦の新婚旅行の地でもあったことから、7月下旬に夫婦で同市を訪れ、霧島連山希少植物保全調査会の皆様のご案内で霧島高原の陽当たりの良い斜面に大切に生育されている苗木を見せていただきました。

孫苗木が里帰りするまでの遠く長い旅程に想いを馳せつつ、いろいろな意味で感慨深い旅となりました。

霧島市はじめ関係の皆様方のご厚意に感謝を申し上げますとともに、キリシマツツジを御縁に同市との活発な交流が末永く続くことを心から祈念いたします。

（写真中央：筆者夫妻）

宮中新嘗祭に献上される献穀米の御抜穂式

県知事、刈乙女と一緒の献穀者・河原勝さん一家
（9月24日、珠洲市上戸町の献穀田にて）

2012年(平成24年)8月17日(金曜日)　読売

列島細見　石川

能登空港 地元動員は限界

金沢支局 加藤哲大

羽田と能登半島をつなぐ石川県の能登空港（輪島市）が、7月で開港10年目に入った。夏休みでロビーは観光客や帰省客でにぎわっているものの、9年前、高齢化が進んだ奥能登地域の活性化の期待を背負って開港した同空港は、節目の年を迎えて戦略の練り直しが迫られている。

開港時、航空会社側が収益を考慮して1日1便を提示したのに対し、利便性を高めたい県は「1日2便が地域活性化の頼みの綱」と主張。目標の搭乗率を下回った場合に県などが補填する搭乗率保証制度を導入し、2便を実現した経緯がある。これまで62～70％に設定された目標搭乗率は、3年目までこれを上回り、航空会社側が県などに「販売促進協力金」を逆に支払ったほど滑り出しは好調だった。

ところが、その後は県が地元を〝動員〟する綱渡りが続く。東日本大震災の影響で初めて目標を下回った開港8年目は例外としても、搭乗率は近年、目標をかろうじて超える程度。

9年目の昨シーズンも、終盤に200人規模の地元老人会の旅行などで追い込みをかけ、6月は75・1％、7月は開港日前日の6日までに83・8％の驚異的な搭乗率を記録。年間平均で62％をぎりぎり0・03ポイント上回らせてクリアした。

ただ、頼みの地元客は当初の5万人台から大幅に減り、9年目は約3万2500人。谷本正憲知事は「毎年追い込み戦術では疲労する。普段から上げる工夫が必要」と、抜本的な対策が急務だとする。

その県が期待を寄せるのが、2014年度末までに東京―金沢間が開業する北陸新幹線だ。首都圏からの入り込み客は、現在の年間約230万人の倍以上に増加すると見込まれる。

県は来春には、金沢と能登空港を結んでいる有料道路を無料化し、新幹線で金沢に入り、帰りは空路で首都圏に戻る、あるいはその逆の「空港イン金沢アウト」の観光ルートを売り出すつもりだ。

しかし、このもくろみが外れれば、新幹線は空港を脅かす存在ともなる。空港と新幹線を効果的に結びつける、より具体的な方策を新たに提示していく必要があるだろう。

10月28日出前講座・渋谷たばこと塩会館

日時　10月28日(日) 13：30～17：00（開場13：00）

テーマ　**世界農業遺産「能登の里山里海」について**

講演①　『能登杜氏の技』
講師：農口尚彦氏（能登町）

講演②　『揚げ浜式製塩』
講師：角花豊氏（珠洲市）

映画　『ひとにぎりの塩』
ゲスト：石井かほり監督

他　**世界農業遺産「能登の里山里海」パネル展示＋DVD放映**
・日程：10月20日(土)～30日(火)
・場所：エントランスホール

祝 飯田高校 創立百周年記念式典

―記念行事参加希望募る―

10月21日(日) 10：00～
記念式典　記念講演
飯田高校第一体育館
記念講演　伊東 乾氏（作曲家・指揮者）

祝賀会
16：00～　珠洲ビーチホテル

宗玄酒造、恋路まで トロッコ運行を計画

宗玄酒造㈱は、同社裏手の廃線線路の土地を取得し管理しているが、この程恋路駅までの350メートルに線路を敷設しトロッコを走らせる計画である。恋路海岸の眺望が楽しめる観光コースにもなることから来春の開通が待望されている。

◎ふるさと行事◎

10月3日(水)～9日(火)　日本橋三越本店　**石川県フードコレクション**
10月6日(土) 13：30～　石川県紀尾井会館　**ふるさと会連絡会**
10月6日(土)～7日(日)　小田急大和駅西口プロムナード　**ふるさとうまいもの市・珠洲物産展**
10月26日(金) 18：30～　椿山荘　**石川県人祭in東京**
10月28日(日)　渋谷たばこと塩会館　**出前講座・世界農業遺産「能登の里山里海」について**
10月24日(水)～30日(火)　伊勢丹新宿本店　**世界農業遺産フェア**
11月9日(金)～11日(日)　**全国丼選手権予選会**―七尾の、松乃鮨、「ザ・ブリ丼」で登場―「旅フェア日本2012」会場内（東京都豊島区東池袋3-1-1【サンシャインシティ展示ホールC】）

頑張る奥能登人

◎浜中 康男さん

レストラン浜中　代表取締役社長
珠洲市上戸町南方イ-21
tel.0768-82-2595

【経歴】
昭和39年上戸町で生まれる
珠洲実業高校卒
京都調理師専門学校卒
25歳で結婚を機に帰郷し
レストラン浜中の調理長として現在に至る
珠洲を代表する料理店に肩を並べる。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆

目下の目標は、能登丼・香箱カニ丼を引っ提げて連続出場中の全国どんぶり選手権（後楽園ドーム開催）での入賞。

★メッセージ

後楽園ドームの「ふるさと祭り東京」の全国どんぶり選手権では、4年連続挑戦してきました。今年は連続出場の実績を買われていたものの、作戦なきまま予選会に臨みまさかの落選でした。来年はシードで出場を決めています。能登丼の代表選手として〝メダル獲得〟の必勝を期してこれまで以上に頑張ります。なにとぞ絶大な応援をよろしくお願いいたします。

お問い合わせ：応援団事務局　TEL 090-8876-4901

◎兵頭 恵子さん（蛸島町出身）

【経歴】
昭和43年東京女子学院卒
日活撮影所に勤務後に東京での最後は不動産会社にて勤務、現在に至る。
10月1日　珠洲市教育委員。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆

母校蛸島小学校に永年図書を寄贈してきた東京在住45年の兵頭恵子さんは、これからの生き方を考えた事を機にご主人と二人、自然の中で過ごしたいと、このほど愛媛県出身の主人と愛猫を伴って帰郷されました。

正院町川尻に居を構え、自宅には「よってかし」の看板を掲げました。旅行者などと珠洲の魅力について話したり、困っている事が有ったら手助けをして楽しい旅行となるように。又、通りがかりの皆さんに気軽に立ち寄って休んでいただければ、とのことでした。

★メッセージ

能登を活性化できるよう微力ですが進めてます。皆さん　能登にお帰りでしたら是非お立ち寄り下さいませ。

〒927-1205 珠洲市正院町川尻13-24-1
メールアドレス：momo0503rionheart@docomo.ne.jp
お待ちしてます。

事務局から

猛暑日が続く中、ロンドンのオリンピック競技大会でも熱い戦いが繰り広げられました。各国を代表するエリート選手たちが互いに持てる力をぶつけ合い、フェアプレーを展開する姿は美しく、そこには、もはや勝者も敗者もありません。

とりわけ、はるかに体格に勝る世界の強豪選手と堂々とわたり合い、銀メダルを勝ち取った「なでしこジャパン」の足跡は実に感動的で、勇気とともに多くのものを私たちに与えてくれました。

誤審に対しことさら言い立てることもなくフェアプレーに徹する潔さ、敗者を思いやる寛容性は世界の称賛を受けましたが、そこに大和撫子の謙虚さとともに武士道精神の真髄を垣間見る想いがしました。どこかの国との際立った違いもまた印象的でした。

優れた日本文化の美点を身をもって世界に示し、私たちにも再認識させてくれた選手の皆さんに敬意を表するとともに感謝したいと思います。

スポーツの祭典の余韻に浸った後は、崇高な次元からやや趣を変え、故郷の秋祭りを堪能いたしましょう！

（乙丸）

制作　株式会社 警察研修社　TEL. 03-3365-3829